

一人息子 (1936)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 87分
初公開日 1936/09/15

【解説】

小津安二郎が自らの原作（ゼームス・楨名義）を監督した、最初のトーキー作品。脚本は池田忠雄と荒田正男。後の作品に見られるコミカルさは控えめで、終始重苦しい雰囲気にも包まれているのは時代のせいだ。

早くに夫を亡くしたつねは、田畑を売り身を削って一人息子の良助を育てた。優秀な成績を誇る息子のため、つねは苦しい生活の中から進学のための資金を捻出。しかし13年後、東京で出世しているはずの良助は、夜学の教師となっており、妻子とともに貧しい生活を送っていた。しかも良助は教師をしていることも所帯を持っていることも、母親に知らせていなかった。上京したつねは厳しい現実を目の当たりにし、絶望感に包まれてしまう。

【クレジット】

| | | |
|------|--------------|------------------|
| 監督 | 小津安二郎 | |
| 原作 | ゼームス・楨 | (小津安二郎) |
| 脚本 | 池田忠雄 荒田正男 | |
| 撮影 | 杉本正次郎 | |
| 美術監督 | 浜田辰雄 | |
| 衣裳 | 斎藤耐三 | |
| 音響効果 | 斎藤六三郎 | |
| 音楽 | 伊藤宣二 | |
| 演奏 | 松竹大船楽団 | |
| 出演 | 飯田蝶子 | 野々宮つね |
| | 日守新一 | 野々宮良助 |
| | 葉山正雄 | その少年時代 |
| | 坪内美子 | 良助の妻杉子 |
| | 吉川満子 | おたか |
| | 笠智衆 | 大久保先生 |
| | 浪花友子 | その妻 |
| | 爆弾小僧 | Bakudan Kozo その子 |
| | 突貫小僧 | 富坊 |
| | 高松栄子 | 女工 |
| | 加藤清一 | 近所の子 |
| | 小島和子 | 君子 |
| | 青野清 | 松村老人 |